

續千 同じくば空に霞のせきもがな雲路の鴈をしほし留めん 爲世

小山田關 夫木 逢事を苗代水に任せてぞこさんこさじは小山田のせき

箱池 同 冬深み箱の池邊を朝行ば氷の鏡見ぬ人ぞなき 知經

小崎池 山鳥のをさきの池の秋の月扱や鏡をかけて澄らん 爲尹

掘兼井 在豊島郡玉川里俗云牛込 又云小日向

其井不用幹縞汲而不涸雖水旱時無增減清冷以爲奇

千載 むさしの、ほり兼の井も有物を嬉しく水の近付にけり 俊成

讓井 在桶町最冷水酒造家争汲

新井 在西新井村増司寺俗傳謂弘法加持涌出

極樂井 在石川傳通院當時開基了譽始掘之冷水

逃水 夫木 東路に有といふなるにげ水のにげ隠れども世を過す哉 俊頼

鞍掛松 在千駄茅野源頼朝繫乘馬於此松云云

真土山 或爲待乳山千壽街道也山上在聖天宮

真土山夕こへ暮ていほさきの角田河原に獨かもねん

妙龜山 在淺茅原總泉寺前 相傳梅若丸死于角田川岸母尋來營小庵修念佛終投身於池死其

池曰鏡池里人立塚名妙龜山

角田川 一名三屋戸川武藏下總之界川上稱万根川

水ぐきの跡かきならすすみだ川ことづてやらん人もとひこす

玉川 俗云太婆加波 出於池上之北落于六江 矢口渡

玉川のさらす細布さらくに昔の人の戀しきやなぞ